

令和8年度 総合型選抜（A0型選抜） 入試採点基準

問1.

（解答例）250字以内

漁労収支に関しては、ブリ養殖では年によっては漁労支出が漁労収入を上回っていることがあるのに対し、カキ養殖では安定して漁労収入が漁労支出を上回っている。漁労支出に関しては、ブリ養殖では約7割が餌代となっており、その比率が極めて高く、経営を圧迫していると考えられる。その傾向は、表中いずれの年でもみられる。一方、カキ養殖では餌代がほとんど不要で、最も多い支出は、その他を除けば雇用労賃である。つまり、ブリ養殖は給餌が必要である一方、カキ養殖では不要であり、これが二つの養殖業の大きな違いとなっている。

（249文字）

※採点基準

対比として、ブリ養殖では餌代が多いのに対して、カキ養殖では餌代がほとんど使われていないことに触れていること。ブリ養殖で餌代が多いことについて、具体的な事項（個人経営体の支出の約7割が餌代となっていること、餌代が経営を圧迫していると考えられること、など）に触れていること。支出と収入の関係についてブリ養殖とカキ養殖では傾向が異なることに触れていることが望ましい。

問2.

（解答例）300字以内

ブリ養殖を営む個人経営体が漁労支出を減らすためには、餌代を減らす工夫をすればよいと考えられる。その理由は以下の通りである。図1から、魚粉の輸入価格は上下変動しつつも年々上昇傾向にあることが分かる。ブリ養殖に用いられる配合飼料中には魚粉が50%程度含まれていることから、魚粉の輸入価格の上昇に伴って配合飼料の価格も年々上昇していることが考えられる。さらに表1から、ブリ養殖では餌代が約7割と極めて大きな割合を占めていることから、これを減らすことが最も効果的であると考えられる。餌代の削減には、給餌の時刻や間隔、給餌量などの最適化を行い、餌が無駄なく魚体へと転換される条件を見つけることが考えられる。

（298文字）

※採点基準

支出を抑える具体的方法に触れられていること。その理由が明確にかつ論理的に述べられていること。特に、餌代の削減について言及していること。魚粉の日本への輸入価格が年々上昇傾向であることに触れられていること。給餌方法の改善や、その他、有効な方法について具体的に触れられていることが望ましい。